

サクラバハノキ

Alnus traveculosa Hand. - Mazz.

カバノキ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

県内の湿地に生育する落葉広葉樹であるが、その生育地はごく限定されている。個体数も少なく、全国的にもややまれな種である。分布域からも貴重である。(現況:RO)

形態

ハノキに似るが、葉の基部は鈍円形、または少し浅心形となる。鋸歯の先端に腺点があり、乾くと濃褐色になる。花は葉に先立って開く。雄花序は枝の先に4~5個ついて下垂する。雌花序はその下方に3~5個つき、短い柄がある。

国内分布

本州(茨城県、新潟県以西)と九州(宮崎県)の暖帯の湿地にまれに生える。

県内分布

中能登区及び南加賀区のスダジイ群団域に分布し、上限が標高200m以下の湿地に生育する。

生態など

落葉高木である。花は葉より早く、残雪中に開花する。開花期は2月~3月。雄花は黒紫褐色、雌花は紅紫色となる。林床にはミゾソバ、カササゲ、チゴザサ、ヒメシロネなどの湿生植物が多く見られる。

生育環境

アカマツコナラ林に囲まれた小さな谷あいや池沼周辺の湿地に見られる。

危険要因

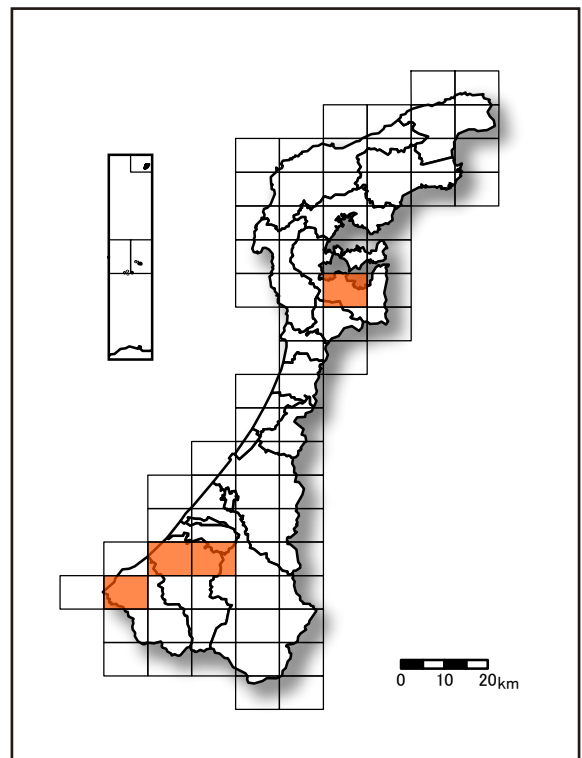
池沼開発、湿地開発、土地造成、道路工事。

特記事項

南加賀区の生育地は小松市文化財天然記念物に指定されている。



林 二良・2009年9月4日・中能登



県内の分布